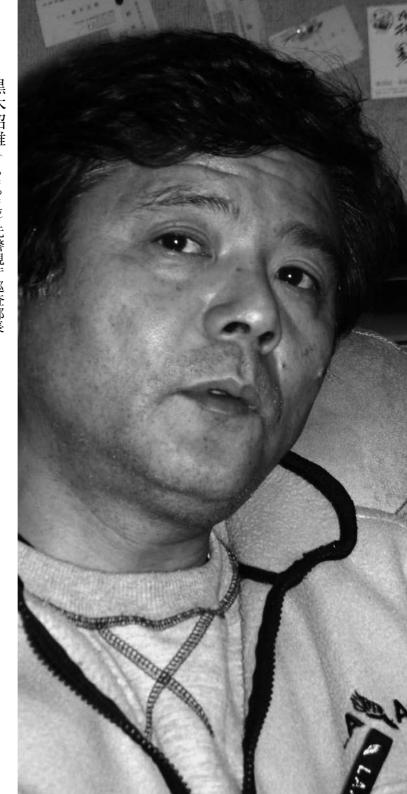
目もマスコミ 雄

り生活を守るだけ



黒木昭雄(くろきあきお)元警視庁巡査部長

ら隊配属。1995年2月、荏原署配属。1999年2月、退職。以後、「捜査するジャーナリスト」として活動中。著書に、『警察腐敗』 1957年12月19日、東京都生まれ。1976年4月、警視庁採用。1977年4月、本富士署配属。1986年7月、第2自動車警 (講談社)、『臨界点』(同)、『栃木リンチ殺人事件』(草思社)、『秋田連続児童殺害事件』(同)など。

警察を辞めたら、気持ちが楽になった

察官とジャーナリストという、まったく違う2つの仕事をしたことで、人生を2 も含めていろいろと大変な時期もあったんですよ。だけど、警察を退職してい 転身しました。退職から現在までの10年間をどのように総括していますか。 れば、絶対経験できなかったようなおもしろいこともたくさんありました。 今はそれぞれ独り立ちしてくれました。子どもたちの進学や就職で、 あっという間 999年、 黒木さんは23年間在職した警視庁を退職し、 0) 10年でした。退職時は小学生と中学生だった2人の子ども ヤー ナリスト

黒木 覚せい剤取締法違反事件では19回もの警視総監賞を受けています。 などの薬物摘発件数が200件以上という華々しい検挙実績を残しました。 警察官時代は、拳銃7丁、実弾71発の押収(合計)に加え、 警察官の仕事は実に様々。 個々の警察官に得意分野があり、 覚せい剤、 僕は薬物 大麻

度やっているような気持ちです。

1 犯を検挙するのが得意だったんです。そうなるまでに、僕はふつうの警察官の かを研究しました。薬物所持を疑って職務質問をかけたものの、 め方などから、どうやって相手の心の中にとけ込み、本当のことをしゃべらせる 00倍努力しましたけどね。 何度も失敗を重ねて、職務質問の 相手が何も持っ か it 方、 話の進

上も摘発させてくれる便利な「S」なんているはずもありません。 で実績を上げていたなどと、あらぬことを噂されたりもしましたが、 うスパイのこと。「協力者」ともいう)を使って誰かに薬物を持たせ、違法捜査 たこともあるんです。「S」(警察に協力するかわりに自分の犯罪を見逃してもら ていなかったこともありました。それで苦情も寄せられたし、ヤクザに土下座し 20 0件以

たのですか。 警察官の仕事にやりがいを感じていた黒木さんが、なぜ退職することになっ

黒木 こととは知らず、僕は彼にしつこくビールを勧めていたのですが、彼はすでに察 手伝って手を上げてしまった。この事件で始末書処分を受けました。 を続けるうち、部下からの酌を受けつけない上司にだんだん腹が立ち、酒の力も 込んだ首謀者は僕だと思っていたようです。「飲め」「飲まない」というやりとり 知していて、かたくなにビールを飲もうとしなかった。彼は、ビールに下剤を仕 同僚たちが宴会で彼に飲ませるため、ビールに下剤を入れていたのです。そんな 隊に所属していました。そこに、部下との折り合いがすこぶる悪い上司がいて、 きっかけ は1993年の慰安旅行です。 当時、 僕は警視庁第2自動

度は戒告処分を受けたんです。僕は同じ事件で2度も処分を受けたうえに、 度詳しく調べて黒木を厳しく処分しろ」という匿名のタレコミが監察にあり、 しかも、事件から1年4カ月も経った1995年2月、「下剤ビール事件を再

自動車警ら隊(八王子市)が車警ら隊(豊島区)、第2自動車警ら隊(豊島区)、第2自動車警ち隊(豊島区)、第2自動車警路で、第2自動車警路で、第2日動車警路で、第2日動車警路で、第3日の一番がある。